



「劇神楽～荒くずし」を披露する大森神楽保存会

5月27日夜、衣川区のふるさと自然塾でおおもりミニ芸能祭が行われました。この芸能祭は、宮城教育大学で「日本の芸能」を受講する学生が、同自然塾で集中合宿を行うのに合わせて開催されました。

集中合宿は、24年前にこの地区の「大森みかぐら」を講義で取り上げて以来、今日まで続けられています。大森神楽保存会（菅原芳英会長）による「劇神楽～荒くずし」のほか、同大学の郷土芸能サークル「びつき」による岩泉町の郷土舞「中野七頭舞」が披露され、学生と地区の人た交流が夜遅くまで続きました。

「神楽」通じた交流4半世紀  
大学生60人が訪れミニ芸能祭

# まちの話題



## グリーン・ツーリズムで自然満喫

東京の中学生が農村生活を体験

衣川・胆沢・前沢にあるグリーン・ツーリズム組織の連合体「おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会」（佐々木信雄会長）が5月31日から6月2日までの3日間、設立後、初めて3区同時に受け入れを行いました。

同協議会は、都会の中・高生などに農村生活体験の場を提供している組織で、より一体的な活動を推進するため、ことしの3月に設立されました。

今回の受け入れでは、東京都大田区立志茂田中学校の3年生142人が、3区内にある農家に泊まり込み、田植えや畑仕事、牛の世話などを体験。前沢区の大内平吉さん宅で、生まれて初めて田植えにチャレンジした泉志緒莉さん（14）は「田んぼの中を歩くのは大変だったけど、とてもいい体験をすることができました」と都会では経験することのできない貴重な体験に、晴れやかな笑顔を見せていました。



快晴の下、田植えを行う志茂田中学校の生徒たち

## 風鈴が奏でる涼しげな音色

水沢駅・水沢江刺駅に風鈴

「日本の音風景百選」にも選ばれている水沢駅の風鈴



南部鉄器まつり実行委員会（及川敬会長）は6月30日、JR水沢駅と東北新幹線水沢江刺駅で南部鉄器製の風鈴を飾り付けました。

この取り組みは、水沢鋳物の販売を促進するため、昭和38年から毎年行われているもので、現在は7月に開かれる南部鉄器まつりのPRも兼ねて行われています。この日は、水沢鋳物工業組合や商工会議所、観光協会などの職員15人が作業に当たり、1日かけてJR水沢駅に1500個、東北新幹線水沢江刺駅に500個ほどの風鈴を飾り付けました。

風鈴は8月末まで飾られ、帰省などで駅を利用する乗降客を、涼しげな音色で出迎えます。

## 老いも若きも運動で笑顔に

チャレンジデー 2006

軽体操を楽しむ生母・斎田地区の人たち



5月31日、前沢区が福岡県久留米市の宮ノ陣校区を対戦相手に、チャレンジデー2006に参加しました。当日はラジオ体操や行政区対抗ボール送り大会など、行政区単位を中心に行われたイベントに参加する区民の姿が早朝から多数見られました。

結果は、区内人口15,179人に対して参加者が11,259人。参加率74.2%は相手の39.8%を大きく上回り、前沢町時代を含めて3度目の勝利を収めることができました。同じく参加した水沢区は惜しくも敗れましたが、参加した人たちは運動をすることの楽しさあらためて感じた様子でした。

## リーダーとして自覚新たに

ジュニアリーダーズクラブ開講式

活動方針などを話し合うメンバー



5月28日、胆沢文化創造センターで胆沢ジュニアリーダーズクラブ「サポテン」の開講式が行われました。ジュニアリーダーとは、中学生や高校生が同世代のリーダーとして、ボランティア活動や自主事業を運営していく活動です。活動を通じて、多くの仲間との交流や、リーダーとしての資質を高めることができます。サポテンは、結成して6年目を迎えました。

本年度の会員は、中学1年から高校3年生まで16人。開講式の後、ことしの活動について話し合い、公民館事業やイベントへの協力、広域清掃活動への参加などを決めました。

## 北上川原で親子が体験学習

「川の学校」で自然を学ぶ

川辺でのさまざまな体験を通して川への関心を高めてもらおうと5月28日、江刺区愛宕の北上川河川敷で「川の学校」（北上川「川の学校」事業実行委員会主催）が開かれました。

市内を中心に胆江地区から親子ら約100人が参加。3つの班に分かれて、ゴムボートに乗って川の観察をしたり、水辺にすむ昆虫や魚などの種類や生態を実際に触れながら学んだりしていました。この日は雨が降り続くあいにくの天気です。野外炊飯など一部の日程が中止されましたが、子どもたちは元気に水辺を歩き回り、楽しんでいました。



水辺の昆虫などに触れる子どもたち